

名古屋市民芸術祭2021  
名古屋市民芸術祭特別賞  
《演劇部門 奨励賞》



初演時のチラシより／イラスト：伊藤ちづる



劇団うりんこは1973年、プロ劇団として創立。うりんこは「イノシシの子ども」のこと。猪のように子どもたちのところへ真っ直ぐ走りたいという願いを込めて付けられました。以来、愛知、岐阜、三重の学校を中心に巡回公演を続け、今では活動は全国、海外に及びます。1986年には「うりんこ劇場」をオープン。子どもたちが自らの力で自らの未来を創っていく「糧」になるような演劇を創りたいと活動を続けています。



〒465-0018 名古屋市名東区八前一丁目112番地  
**TEL.052-772-1882**  
FAX.052-771-7868 [www.urinko.jp](http://www.urinko.jp) [info@urinko.jp](mailto:info@urinko.jp)

あんたが幸せになることだよ

# わたしとわたし、 ぼくとぼく

作・演出：関根信一（劇団フライングステージ）

美術：岡田保（演劇組織 KIMYO/かすがい創造庫） 照明：四方あさお 衣裳：さくま晶子 音楽・音響：内田アダチ  
宣伝美術：イラスト/伊藤ちづる デザイン/オフィスニーフェ 演田邦彦・千寿 写真/清水ジロー 映像/山内崇裕



# 「自分とは違う人」も 大切に出来る世界を

## ストーリー

保育園に勤める30歳の健人は、男性保育士に対する保護者の偏見に落ち込み、ゲイである秘密を打ち明けられず引きこもってしまっただけ。ある日、鏡を見ていると、1人の少女が現れて、言った。『世界を救って欲しい』少女に導かれて1997年の教室へ。そこで10歳の自分と出会い…

## 高校生のみなさんへ

このお芝居では、LGBTQ(レズビアン、ゲイ、バイセクシャルなどのセクシャルマイノリティの頭文字)を題材として扱っています。お芝居で描いたのは用語の説明ではなく、人と人の関わり方、一人一人違う生き方をどう認め合っていくかという事です。劇中では、そういった人たちをからかったり貶めたりするような言葉は使わないように努めました。誰にでも無縁ではない、いじめや孤立の問題をいつもとは違った切り口から描いてみた作品です。どうぞ最後までごゆっくりご覧ください。

作・演出 関根信一

関根信一 俳優、劇作家、演出家

1992年よりカミングアウトしているゲイの劇団フライングステージ代表。現代日本のゲイの姿をリアルに描く演劇作品を作り続けている。



この作品の  
ダイジェスト映像



うりんこ  
青少年向き作品年表

